



# 学校規模の適正化と適正配置にかかる 令和5年3月 アンケート結果

令和5年3月7日に手熊小ランチルームにおいて市教育委員会による学校規模の適正化と適正配置にかかる説明会を開催しました。

説明会では、これまで一番の課題として挙げられていた通学について、登校時のスクールタクシー（案）が提示され、これまで継続して要望してきた子どもたちの安全について、一步前進するご回答をいただきました。

また、令和2年の育友会総会で決定した保留の3年間はまもなく経過することから、再度アンケートを実施し、令和5年度手熊小学校に通学する全19世帯からご回答をいただきました。



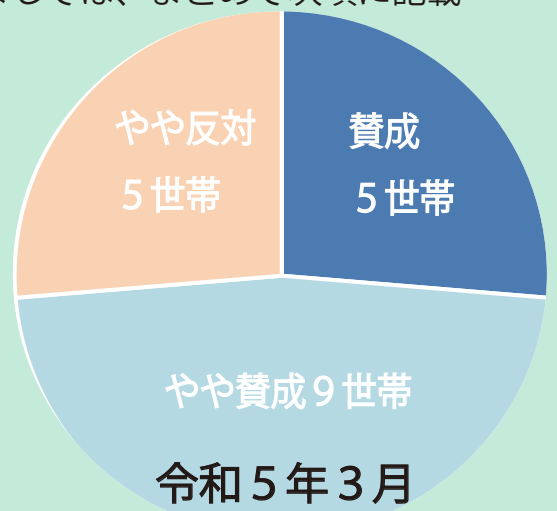
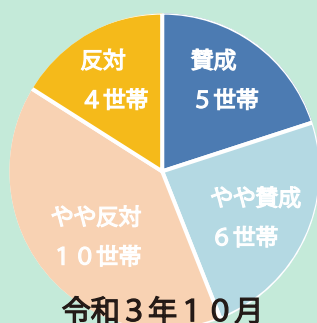
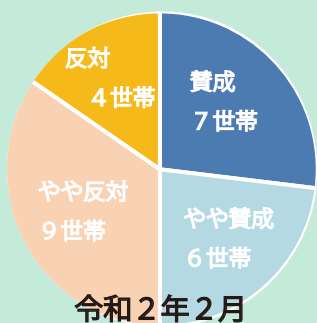
## アンケート結果

賛成 5世帯 (26.3%)  
やや賛成 9世帯 (47.4%)  
やや反対 5世帯 (26.3%)  
反対 0世帯 (0%)

今回、市教育委員会から登校時のスクールタクシーの提案もあり、アンケート結果は「賛成」5世帯、「やや賛成」9世帯で、二つをたすと全体の7割を超え、「やや反対」5世帯、「反対」は0世帯という結果になりました。

これはこれまでの統廃合保護者会で決定した判断ラインの8割に近い結果であり、4月26日の育友会総会において、今後の進め方について執行部より（案）を提示し、保護者の皆様のご理解ご納得を頂いたうえで、進めていきたいと考えております。

また、今回ご回答いただいたアンケートの詳細につきましては、まとめて次項に記載しますのでご覧ください。



## 賛成意見の理由



今回の提案で行きの不安は解消されると思うが、帰りのバスの本数の少なさが気になる。

人数が多いほうが授業でも、様々な面で出来ることが増える。

いろんなタイプの子と触れ合わせたい。

人が増えることで子どもの活動の幅も増えてよい。(たくさんの友達もできる。)

いろんな行事はやはり大人数の方が色んな事もできるし楽しい。

中学生になったときに安心感がある。

バス通学の面でも子どもの自立心適応能力が向上したらよいなと思っており気にしていない。(他校では1年生から遠い距離をバス通学している子もいる。)

大人数になると、いじめや色んな人間関係があると思うが何事も経験、親が見守ることも大切だが自分自身を守る危機管理能力は経験しないと身につかない。自立するにはいい機会と思う。

大規模校・小規模校両方経験して、大規模校の方がより多くの人とかかわりを持つことができ、そこから学ぶことが多くある。

最近は小規模校のメリットよりデメリットの方が目立ってきていると思う。まじめにちゃんとしている子の立場が弱くなっているように思う。

児童数の減少・家庭数の減少でさらに各家庭の負担が多くなると思う。

建物の維持管理費用だけで膨大なコストがかかっているのに、学校統廃合によるコスト削減分を教育の充実にあててほしい。

## 反対意見の理由



帰りの路線バスが心配。

いじめがあっていると聞いたので心配。

学力問題について少人数でも心配なところはあるが、人数が増えていろんな考え方を学べる反面、わからないところがわからないままで、先生の目が届かない気がする。

## 自由記載欄の意見



登校時のスクールタクシーを出してくれるのは本当にありがたいと思う。

下校時はバスになるが「こうしたら危ない」など自ら学ぶ経験になるはず。危険な行動はまずは児童本人がしっかり意識すべきこと。

現に私立へ通っている1年生がバス通学しているわけでこれも慣れたと思う。

路線バスに乗せるのはとてもいいと思う。一般のバスがいい。譲り合いを学ぶことが出来るし時間を考えて行動できるようになる。高学年が低学年を思いやるようにもなる。

行きだけでなく、帰りもサポートしてほしい。(統廃合時点で要件を満たしていなくてもバスの減便や式見小の統廃合など、条件が変わるときには見直しを行ってほしい。)

帰りは子どもたちの安全のため先生たちのサポートの話もあったが現実的に先生方の負担も心配。

資料をみて反対理由が母校であったり地域衰退、跡地の問題と、これからの子どもたちの未来を考えた理由ではないのにビックリした。

「たれば」の話ばかりでちょっと不安